

---

# 未来日記～カオスストーリー～

yuki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

未来日記〜カオスストーリー〜

### 【Nコード】

N7859T

### 【作者名】

yuki

### 【あらすじ】

シリアスな未来日記がバカなことになったら？っていう作者の思いつきで書いた小説です。カオスです。なんか壊れてます。

自己紹介！・・・え？やってないよね・・・？by雪輝（前書き）

カオスです。

自己紹介！・・・え？やってないよね・・・？by雪輝

雪輝「由乃、なにコレ？」

由乃「作者の思いつきだよ。なんかね、私達でバカなことをやってほしいんだって。そんなことよりもユツキー、今日もカツコいいね」

雪輝「ふーん・・・で」

由乃「で？」

雪輝「何やるの！？企画とかないの？」

由乃「えーとね、ユツキー。（カンペを見ながら）自己紹介！キャラを作れ！・・・」

雪輝「自己紹介？えー・・・。僕中学で失敗したんだよね・・・」

由乃「大丈夫！そのユツキーも可愛かったから！」

雪輝「でも、僕と由乃しかいないじゃん・・・」

由乃「そう言うと思って・・・」

雪輝「え・・・？」

バタン！！

秋瀬「こんにちは、雪輝君。今日もカツコいいね」

みねね「よう、雪輝」

由乃「不本意だけど・・・こいつ等と+呼んだんだ。あと秋瀬、

お前セリフパクるな。このカ ルがア！」

秋瀬「ああ、ごめんね。ヤンデレさん？」

由乃「殺してやる・・・殺してやる・・・」

秋瀬「殺すとか、なんで普通に言えるのかな？どういう教育をされ

たんだか・・・（笑）」

由乃「このカ ルやろう・・・本編ではクビチヨンパのくせにつ・・・

・！」

（火花バチバチ中）

雪輝「あの一？由乃一？秋瀬君一？」

みねね「ダメだな。雪輝、今この場には、全所有者＋一般人もいる！」

雪輝「あ、そうなんだ……。よく見たら谷口……。じゃなかった高坂もいたね」

みねね「そうだ！全員いる！よし、やることはなんだ！」

雪輝「サバイバルゲーム」

みねね「ちがう！！」

雪輝「えええ！？ちがうの？」

みねね「ちがう。正解は、自己紹介だつ！！」

雪輝「えー？やりたくないよ……」

みねね「ダメだ。企画だからな。やらないんだつたら……」

雪輝「やらなかったら……？」

みねね「みねね特性T～N～T～爆弾～（ドラえん風）」

雪輝「うわああああああああああああああ！やります！喜んでやります！」

みねね「よし！じゃあやるぞ」

由乃「カルが調子のるなあ！」 斧振り回しながら

秋瀬「ヤンデレさん。醜いですよ？雪輝君を監禁して……」

華麗に避けながら

みねね「まだやってたのかよ……」

雪輝「天野雪輝です。ただの人間には興味ありません」



雪輝「もう眠いから寝るね」

由乃「わかった！おやすみユツキー。写真いっぱい撮るね」

秋瀬「我妻さん！それはだめだよ！」

雪輝「おやすみー」

由乃「おやすみ、ユツキー」

秋瀬「あれ？自己紹介、しないのかい？」

みねね「あつ、忘れてた」

秋瀬「あはは・・・」

自己紹介は次回に続きます

自己紹介！・・・え？やってないよね・・・？by雪輝（後書き）

初めまして！yuki と申します！

原作が終わってから興味を持ち始めたバカです。

ちなみに、不定期更新予定です おーい・・・

読んでくださった方、ありがとうございます！

感想もよろしくお願いします

それでは

今度こそ自己紹介（棒読み）！ユツキー今日もかっこいいね！b y由乃（前書き

雪輝「ふぁゝあ・・・」

由乃「ユツキー今日もカッコいいね！大好きだよ！」

雪輝「ありがとう・・・僕も好きだよ」

由乃「ユツキー・・・」 赤面してる

秋瀬「・・・僕達、ここにいたら邪魔かな？」

みねね「大丈夫だろ。さて、今回は！」

秋瀬「前回できなかった『自己紹介』をするよ」

今度こそ自己紹介（棒読み）！ユツキー今日もかっこいいね！by由乃

秋瀬「じゃあ、さっそくやっついていこうか」

みねね「そうだな。じゃあまず主人公・天野雪輝から」

雪輝「え？なにをやるの？」

みねね「自己紹介だよ、自己紹介！たく聞いてるよ……」

雪輝「あ、うん。ぼ、僕は、あ、天野、ゆ、雪輝です……趣味はダーツと、日記をつけることです。『無差別日記』というものを持っています」

由乃「可愛いよユツキー！」

秋瀬「次、我妻さん！」

由乃「天野由乃です」

秋瀬「あれ？天野「さん」なんて居たっけ？たしか日本は女性は16歳、男性は18歳にしないと結婚はできないんだっけな。ねえ、そうだよ、ね、「我妻」さん？」

由乃「秋瀬或……あとで殺す……我妻由乃です。ユツキーのお嫁さんです。ユツキーを愛しています。『雪輝日記』を持っています」

みねね「つ、次、秋瀬」

秋瀬「秋瀬或です。世界的な探偵になるのが夢です。雪輝君の味方です。『探偵日記』を持っています」

由乃「使えない探偵が。カルとでも言っとけ」

秋瀬「一番言っちゃいけないセリフだよ！我妻さんもヤンデレって言いなよ」

由乃「この野郎……」斧振り回す

秋瀬「どの野郎だよ」鉄パイプを取り出す

みねね「無視するか……。私は雨流みねねだ。テロリスト。フロリストではないからな。間違えんなよ」

秋瀬「一通り終わったね」



火山「火山高夫。通り魔・・・じゃなくて教師です」

来須「来須圭悟だ。刑事。息子が病気。以上」

礼佑「豊穰礼佑です！エリートです」

椿「春日野椿と申します。・・・最近、秋瀬或君が気になります」

秋瀬「・・・えっ・・・？」

マルコ「戦場マルコ。愛を愛してる。ダ、ダジャレじゃねえからな」

愛「美神愛。マルコを愛してる・・・」 赤面している

かまど「上下かまどだべさ。『母の里』を経営してるだべさ」

月島「月島狩人。日向の父で犬が好きだ」

ジョン「ジョン・バックスだ。桜見市長だ」

平坂「平坂黄泉デス。正義ノ味方デスヨ！」

高坂「高坂王子だ！俺って輝いてるぜっ！」

日向「日野日向や。雪輝のクラスメイトや」

まお「野々坂まおですわ。日向のおっぱいがまた揺れてるですわね」

西島「西島真澄です。雨流の愛人・・・じゃなくて婿です」

雪輝「終わったね」

秋瀬「なんか春日野椿さんが僕のことを言ってたような気がするけど・・・」

椿「椿でいいわよ。べ、別にアナタのことは言っていないわよ！」

秋瀬「わかったよ、椿さん。やっぱり言ってないよね。僕なんかを美しい貴女が気になるはずないもの」

椿「・・・そうよ（心：はあ・・・鈍感なのね・・・）」  
みねね「・・・応援するよ」

椿「ありがとう」

由乃「私も応援してあげるわ（心：ユツキーに近づくと害虫が違つとこへ行ってほしいもの）」

椿「あ、ありがとう」

雪輝「秋瀬君、由乃達はなんの話しをしているの？」

秋瀬「椿さんを応援しているんじゃない？」

雪輝「応援つて・・・何かやるの？」

秋瀬「うーん・・・わかんないな・・・」

女性陣「」「男つて鈍感だなあ」「」

由乃「かつこいいよユツキー！」

今度こそ自己紹介(棒読み)！ユツキー今日もかっこいいね！by由乃(後書き)

最初に、謝罪します。すみません。

リアルが忙しくて更新できませんでした。

って言い訳ですよ。3話は、来週中に投稿したいです。

感想よろしく願います！

それでは

七夕 願いごとをしよう!・・・楽しみだねby秋瀬(前書き)

雪輝「今日は七夕だよ!」

由乃「そうね!」

雪輝「だから・・・」

みねね「だから?」

雪輝「笹の葉に願いごとを書こう!」

秋瀬「いいね!じゃあ、適当にメンバーを集めよう!」

雪輝「(通話中・・・)よしっ!高坂達OKだったよ!」

由乃「毎回毎回、ひねりが無いわね」

みねね「言うなっ!」

七夕 願いごとをしよう!・・・楽しみだねby秋瀬

雪輝「つというわけで、『七夕 願いごとをしよう祭り』を開催します」

由乃「ユッキー!カッコいいよー」

雪輝「そう・・・かな・・・?」 顔が赤い

由乃「うんっ!」

雪輝「あ、ありがとう」 顔真っ赤か

みねね「さて、今回呼んだゲストの方々は・・・」

高坂「七夕の日の俺も輝いてるぜっ!」

日向「そろそろ自分、現実を見い?」

高坂「うっ・・・」

まお「日向は最高ですわ」

礼佑「七夕、楽しみだなー」

椿「秋瀬君がいるから、参加するわ」

秋瀬「・・・?暇だからじゃないのかい?」

椿「・・・。あんた、本当に鈍いわね・・・。」

秋瀬「・・・?」 混乱中

みねね「以上の子供達だ」

雪輝「まあ、七夕だから大人はいららないよね」

みねね「そうだな」

ドタドタドタ・・・

ムルムル「ちよつと待つんじゃないー!!!!!!」

雪輝「あ、ムルムル」

由乃「そういえば忘れてたわね。自己紹介のときから」

ムルムル「酷いのじゃ・・・。ワシはずっと餅をつきながら待って

おったのに・・・」

雪輝「ごめんごめん。こいつはムルムル。ガキ。以上」

ムルムル「酷いのじゃー・・・」

みねね「さて、願いごとでも書くか」

みんな「」「書き終わったー！」「」

秋瀬「じゃあ、笹の葉に吊るそうか」

雪輝「うん。秋瀬君は何て書いたの？」

秋瀬「僕？僕は・・・」

椿「（心：盗み聞きしちゃおう・・・。もしかして、私のことか・・・）」

秋瀬「『みんなと、仲良く過ごせますように』だよ」

雪輝「へー。秋瀬君は偉いねー！」

みねね「もちろんその中には、6thも入っているよな？」  
近くにいる椿を見ながら

椿「（心：えっ・・・！?）」

秋瀬「もちろんだよ。僕は、みんなと仲良くしたいから」

椿「（心：私も入ってるの!?!?わーい 聞いてくれてありがとう、9t・・・じゃなくて雨流さん!）」

由乃「きれいごとね」

秋瀬「別にいいじゃないか。そういう我妻さんは?」

由乃「私は」

秋瀬「どうせ」ユッキーのお嫁さんになれますように『でしょ?」

由乃「……。」 凶星

秋瀬「もしかして凶星かな？」

由乃「秋瀬え……或う……お前は死ねっつ！……！」 日本刀振り  
回す

秋瀬「我妻さん。銃刀法違反だから警察行こう？ついでに精神科も」  
由乃「殺す……。」 狙いを定める

秋瀬「おっと。殺すとか言っちゃだめだよ？」 鉄パイプ振り回す

みねね「あいつらは気にしないようにするか」

日向「まおはなんて書いたんやー？」

まお「『日向のおっぱいが揺れますように』と書きましたわ」

日向「まお、書き直しいや」

まお「なんでですのっ！」

日向「書き直しいや！」

高坂「いえーい！俺は星よりも輝いているぜっ！」

礼輔「僕……エリートなのに……出番これだけ？」

雪輝「高坂、礼輔君。なんて書いたの？」

高坂「俺は『誰よりも輝きますように』だぜっ！」

雪輝「スルー確定だね。礼輔君は？」

高坂「……。」

礼佑「やった。出番があつた……。僕は『エリートになれますよ  
うに』だよ」

雪輝「礼佑君らしいね」

礼輔「……そうかな？」

雪輝「うん！」

礼佑「えへへ……。」

みねね「そういう雪輝。お前は何て書いたんだ？」

雪輝「僕は『楽しく毎日を過ごせますように』だよ」

みねね「普通だな」

雪輝「うっ……9thは？」

みねね「私は『西島とうまくいきますように』だ」

雪輝「9thにしては……。まともだ……」  
みねね「だろっ！」

願いごと

雪輝「……『毎日楽しく過ごせますように』」

由乃「……『ユッキーのお嫁さんになれますように』」

秋瀬「……『みんなと、仲良く過ごせますように』」

みねね「……『西島とうまくいきますように』」

椿「……『秋瀬君と恋人になれますように』」

高坂「……『誰よりも輝きますように』」

日向「……『みんな健康でいてくれますように』」

まお「……『日向のおっぱいが揺れますように』」

礼佑「……『エリートになれますように』」

ムルムル「……『餅がいつぱい食べれますように』」

ムルムル「また忘れられたのじゃ……」

七夕 願いごとをしよう！・・・楽しみだねby秋瀬（後書き）

まず最初に、すみませんでした！リアルで期末テストとかがあり、更新できませんでした。次回は、なるべく早めに更新します。  
それでは

夏だ！ドッチボール大会！（前編）・・・何故だっ！byみねね（前書き）

雪輝「ねえ由乃」

由乃「なあに？ユッキー！あ、もしかして秋瀬を殺してほしいの？それならすぐに殺ってきてきてあげるよ！」

雪輝「ちがうよ。秋瀬君は殺さないでね。僕の友達だから・・・ね？」

由乃「わかったわ！（心：ちっ 舌打ち）・・・で、どうしたの？」

雪輝「あのね・・・。その、えっと・・・」

みねね「早くしろ」

雪輝「わっ・・・。みね姉いたんだ」

みねね「いた。あと何気に『モザイク消し』の呼び方で呼ぶな」

秋瀬「あちらの僕はいつ登場するのかな？」

雪輝「秋瀬君も・・・。で、僕はそのっ！」

秋瀬「その？」

雪輝「ドッチボールがしたいんだっ！」

由乃「いいわね！殺りましょう！」

秋瀬「我妻さん、字がちがうよ。僕も賛成だ」

みねね「なっ・・・嫌な予感が・・・」

雪輝「じゃあいつものメンバー+ を呼ぶね」

夏だ！ドッチボール大会！（前編）・・・何故だっ！byみねね

雪輝「ほっ、今日は皆さん集まっていたいただき、ありがとうございます  
す」

由乃「ユッキーカッコいいよ！」

雪輝「あ、ありがとう！じゃあルール説明を簡単にします」

くルールく

・参加者はそれぞれ雪輝チームと秋瀬チームに分かれる（くじ引き  
で決まりました）

く雪輝チームく

- ・天野雪輝
- ・我妻由乃
- ・高坂王子
- ・上下かまど
- ・ムルムル
- ・豊穰礼佑
- ・美神愛

・天野礼亜

く秋瀬チームく

- ・秋瀬或
- ・日野日向
- ・野々坂まお
- ・平坂黄泉
- ・宮代お鈴
- ・春日野椿
- ・戦場マルコ

・天野九郎

審判：雨流みねね 審判補佐：西島真澄

・服は全員体操着

・元外は無し

・頭以外の場所にボールが当たった場合、外野に行く

・どちらか一方の残りの内野の人数が2人になったとき、相手の勝利とする

・あとの残りの細かいルールはウィキ等を参考にする

雪輝「・・・以上です」

みねね「ちよつと待て！」

雪輝「どうかしたの？」

みねね「なんで『審判補佐』がいるんだよ!!!」

雪輝「つ・・・匿名の方から『前回（七夕のとき）、親切にくつつけていただいたから、そのお礼として』と希望されたからだよ？」

みねね「椿だなっ！春日野椿だなっ!!!」

雪輝「じゃあ、始めようか」

雪輝「さいしょーはグー……」

秋瀬「じゃんけん……」

雪秋「ぽんっ！」

雪輝　グー　秋瀬　パー

秋瀬「よしっ！じゃあボールだ」

雪輝「僕はコートだね。じゃあ、こっちにするね」

みねね「……何やってるんだ？」

雪輝「何って……。勝ったほうがボール、負けたほうがコートを  
選ぶじゃんけんだよ？」

みねね「おいおい……。普通、ジャンプボールとかじゃないのか  
？」

秋瀬「あ、そういえばそうだね」

雪輝「まあ、別にこまかいことはいいよね。これで行こう」

みねね「じゃあ、ゲームスタート！」　ピーとホイッスルを鳴らす

秋瀬「まずは誰を狙おうか……」

椿「簡単な奴から当てていけばいいと思うわ」

秋瀬「じゃあ……」　高速で投げる

ムルムル「なっ……?」

ドッカーン!!

みねね「ムルムル、外野に行け」

ムルムル「うううっ……。またあまり出番が無いのじゃ……」

椿「凄いわね（心；カッコいい……）」

秋瀬「あはは 得意だからね」

由乃「ムルムルの近くにボールが転がってたわ。ユッキー、投げる？」

雪輝「いや、いいよ由乃が投げなよ（心・秋瀬君凄いなあ……）」

由乃「秋瀬は無理そうね……。ならっっ！」 回転投げ

お鈴「えっ……。?」

ドッカーン!!

みねね「宮代お鈴、外野に行け」

お鈴「今回が初登場だったんだべ……」

由乃「ちよろいつ！」

雪輝「凄いよ由乃!!」

秋瀬「我妻さん……。やるね」

西島「中途半端だけど中編に続く！（まさかの三部完結!）」

夏だ！ドッチボール大会！（前編）・・・何故だっ！byみねね（後書き）

これからも大体、これぐらいのペースだと思います。

次回は再来週くらいに投稿をしたいと思います

それでは

波乱のドッチボール大会！…大丈夫だよね…by雪輝（前書き）

雪輝「現在…

x…外野

〈雪輝チーム〉

・天野雪輝

・我妻由乃

・高坂王子

・上下かまど

・ムルムルx

・豊穰礼佑

・美神愛

・天野礼亜

〈秋瀬チーム〉

・秋瀬或

・日野日向

・野々坂まお

・平坂黄泉

・宮代お鈴x

・春日野椿

・戦場マルコ

・天野九郎

審判：雨流みねね

審判補佐：西島真澄

つとなってます！」

波乱のドッチボール大会！…大丈夫だよね…by雪輝

秋瀬「さて、さっき当たったボールがバウンドして僕の所にあるんだよね…。…日向、よかつたら投げるかい？」

日向「え…。いいんか？ありがとな秋瀬」

秋瀬「いえいえ。存分に投げるといいよ」

雪輝「由乃、日向のボールがくるよ」

由乃「大丈夫。ユツキーは私が守るから」

雪輝「ゆ、由乃」 赤面してる

日向「投げてもいいよな？」

まお「日向がんばれですの〜！」

日向「ほな、行くでっ！」 ボールを投げる

高坂「へ…？」

ドカッ！

高坂「ボールが当たった俺も輝いて、いる、ぜ、」 半分気絶

みねね「高坂王子、外野に行け」

日向「悪い悪い、力が入りすぎてしまったあ」

まお「素敵ですわ…！」

由乃「負けられないわね…！ユツキー、ボール頂戴」

雪輝「う、うん」

由乃「ありがとう さて…」 回転投げ

平坂「エッ？」

由乃「ちよろいつ！」

ドカッ！

平坂「マダ、チャント喋ッテナイノニ…orz」

みねね「平坂黄泉、外野に行け」

秋瀬「やはり我妻さんは強いな…でもっ！」 普通に投げる

礼佑「っ！？」

トンッ！

秋瀬「僕だつて負けてられないよ」

椿「（心：カッコいい！ちゃんと子供だから強く投げないように手加減してる…。やさしいな…）」

みねね「豊穰礼佑、外野に行け」

由乃「やるわね…！」

戦場「ちよつといいか？審判」

みねね「なんだ？」

美神「私達、飽きちゃったわ。だから抜けるわね」

みねね「え、おい！」

戦場「俺らは当たつたつてことにしておけ」

バカツプル「じゃあな（ね）」

みねね「あいつら、今度会ったらTNT爆弾だ」

秋瀬「賛成に1票」

雪輝「賛成に1票」

西島「どうなるドツチボール大会！？次回完結？」

波乱のドッチボール大会！…大丈夫だよね…by雪輝（後書き）

まず最初に、すみませんでした。体育祭とかがいろいろとありまして…。

次回はなるべく早く更新したいと思います！それでは

最終決戦！勝つのはどっちのチーム！？……ユツキーを勝たせなきゃ！by由丑

雪輝「かなり間が開いてしまいました。すみません」

秋瀬「雪輝君、何しているの？」

雪輝「作者の代弁だよ……。どうして僕がこんなことを……。」

秋瀬「主人公だからだよ（笑）さて、現在

×…外野

〈雪輝チーム〉

・天野雪輝

・我妻由乃

・高坂王子×

・上下かまど

・ムルムル×

・豊穰礼佑×

・美神愛×

・天野礼亜

〈秋瀬チーム〉

・秋瀬或

・日野日向

・野々坂まお

・平坂黄泉×

・宮代お鈴×

・春日野椿

・戦場マルコ×

・天野九郎

となっっているよ！」

最終決戦！勝つのはどっちのチーム！？……ユツキーを勝たせなきゃ！by由丑

雪輝「さて、ボールは僕達からだね。投げたい人いる？」

かまど「（ここで活躍しないと、本格的に空気になってしまっただべさ！）なら、オ」

礼亜「雪君、ボールを寄越しなさい」

雪輝「う、うん」ポイツ

礼亜「ありがとう。……さて」ジロツ

九郎「……………」

礼亜「色々な恨みいいい！」  
ズドンっ！

九郎「な、なんだよ母さん……」 キャッチ

礼亜「黙りなさい。そもそもあなたが甲斐性無しだから雪君が……」

九郎「な……！？そもそもお前が、あの時……」

雪輝「……………母さん？父さん？」

天野夫妻「雪君は黙ってなさい！」

雪輝「ひい……………」

由乃「あ、ユツキーが貶されている……………許さない、例えお母様やお父様でも……」 斧を取り出す

秋瀬「我妻さん、殺らせないよ。僕は、雪輝君の悲しむ姿を観たくないからね」 鉄パイプ装備

椿「（秋瀬君、戦っている姿もやっぱりカッコいいなあ……）」

まお「日向、どうしますの？」

日向「そっちなあ……帰るか？まお？」

まお「私は日向が行くところに行きますわ」

日向「ほな、帰るか」

まお「ええ」

みねね「たつく…アイツらは…」

西島「まあいいじゃないか。…それより、今日食事とか行かないか？」

みねね「お前…私を誘っているのか？」

西島「そうだよ」

みねね「なっ…」 赤面している

西島「だめかい？」

みねね「ふんっ…！暇だから行ってやる！」

西島「よかった！じゃあ、行こうね」

みねね「ああ！」

ムルムル「見事な感じにバラバラになってしまったのー？」

高坂「空気になった俺も輝いてるぜっ！」

礼佑「これじゃあもう続けられないねー？」

ムルムル「そうじゃ、因果律をいじって…！あれ？」

雪輝「ねえ、由乃」

由乃「なあに？ユツキー！もしかして秋瀬を殺してほしいの？それならすぐに殺つてきてあげるよ！」

雪輝「ちがうよ。秋瀬君は殺さないでね。僕の友達だから…ね？」

ムルムル「あれ？なんかデジャブを感じるのじゃ…？？」

雪輝「秋瀬君も…。。で、僕は、そのっ…！」

秋瀬「その？」

雪輝「ドッボールがしたいんだっ！」

ムルムル「……………あ。もしやループ？」

高坂「ループしても俺は輝いてるぜっ！」

**最終決戦！勝つのはどっちのチーム！？……ユツキーを勝たせなきゃ！by由丑**

投稿が遅れてしまい、すみませんでした。

その、パソコンが壊れました。

次回は年を越すまえには投稿したいと思います。

それでは

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7859t/>

---

未来日記～カオスストーリー～

2011年11月18日06時13分発行